

平成16年12月期 第1四半期業績の概況(非連結)

平成 16年 5月 7日

上場会社名 株式会社 長府製作所 (コード番号: 5946 東証第一部)
 (URL <http://www.chofu.co.jp/>)
 問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 川上 康 男 TEL (0832) 48 - 2777
 責任者役職・氏名 代表取締役専務 島田 実

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近会計年度における認識の方法との相違の有無: 有

- ・法人税額の計上基準...法定実行税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
- ・その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。

2. 16年 12月期第1四半期業績の概況 (平成 16年 1月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

(1) 経営成績の進捗状況

(百万円未満切捨)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期(四半期)純利益 | |
|--------------|--------|-----|-------|-----|-------|-----|------------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 16年12月期第1四半期 | 10,184 | 3.3 | 1,112 | 4.9 | 1,430 | 4.0 | 832 | 4.5 |
| 15年12月期第1四半期 | 9,863 | - | 1,169 | - | 1,490 | - | 871 | - |
| (参考) 15年12月期 | 39,489 | 1.8 | 4,206 | 0.0 | 5,030 | 2.4 | 2,585 | 1.9 |

(注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

2. 四半期決算の開示につきましては、当第1四半期より実施しております。平成15年12月期第1四半期についての開示は、当第1四半期と同様の方法により算出したものであります。

(売上高の内訳)

| | 当第1四半期 | | | 前第1四半期 | | (参考) 前期 | |
|----------|--------|-------|------|--------|-------|---------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 増減率 | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 |
| | 百万円 | % | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 給湯関連機器 | 5,122 | 50.3 | 4.5 | 4,900 | 49.7 | 18,515 | 46.9 |
| 空調関連機器 | 1,758 | 17.3 | 6.3 | 1,877 | 19.0 | 6,796 | 17.2 |
| システム関連機器 | 1,415 | 13.9 | 6.2 | 1,333 | 13.5 | 6,998 | 17.7 |
| ソーラー関連機器 | 521 | 5.1 | 1.7 | 530 | 5.4 | 2,329 | 5.9 |
| その他 | 1,366 | 13.4 | 12.0 | 1,220 | 12.4 | 4,849 | 12.3 |
| 合計 | 10,184 | 100.0 | 3.3 | 9,863 | 100.0 | 39,489 | 100.0 |

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期におけるわが国経済は、米国経済の回復を背景とした輸出の増加や、企業収益の改善による設備投資回復など景気は次第に明るさが見え始めてまいりましたが、個人消費ではデジタル家電など一部の分野を除き依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社におきましては、経済性と快適性を重視した商品開発を行うとともに、従来販路の拡充や新規販路の開拓などの積極的な営業活動を行ってまいりました。

売上高を分類別に見ますと、給湯関連機器は、新築住宅着工件数が引き続き低水準で推移するなど業界全体が厳しい状況にある中、石油給湯機器、ガス機器の減少はありましたものの、環境にやさしく、省エネ性に優れたエコキュートが大幅に売上を伸ばし全体で4.5%の増加となりました。空調関連機器は、エアコンが、海外向の販売増はありましたものの国内での売上不振が影響し、全体で6.3%の減少となりました。システム関連機器はシステムバスが順調に売上を伸ばし全体で6.2%の増加となりました。

この結果、当第1四半期の売上高は101億84百万円(前年同期比3.3%増)となりましたが、割引率の変更による退職給付費用の負担増などにより、営業利益11億12百万円(前年同期比4.9%減)、経常利益14億30百万円(4.0%減)、四半期純利益8億32百万円(4.5%減)となりました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

特に記載すべき事象はありません。

3. 16年12月期の業績予想（平成16年 1月 1日 ~ 平成16年12月31日）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----|--------|-------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 中間期 | 20,000 | 2,450 | 1,380 |
| 通期 | 41,500 | 5,050 | 2,780 |

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 77円79銭

当第1四半期は、概ね計画通りに推移しており、現時点では前回公表の中間期及び通期の業績予想に変更はありません。

*上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。